

# ささやき



発行：がん診療推進委員会 発行元：がん診療支援室

## がん相談窓口よりトピックス

### 「がんの治療と妊よう性」

女性だけでなく  
男性も対象です。



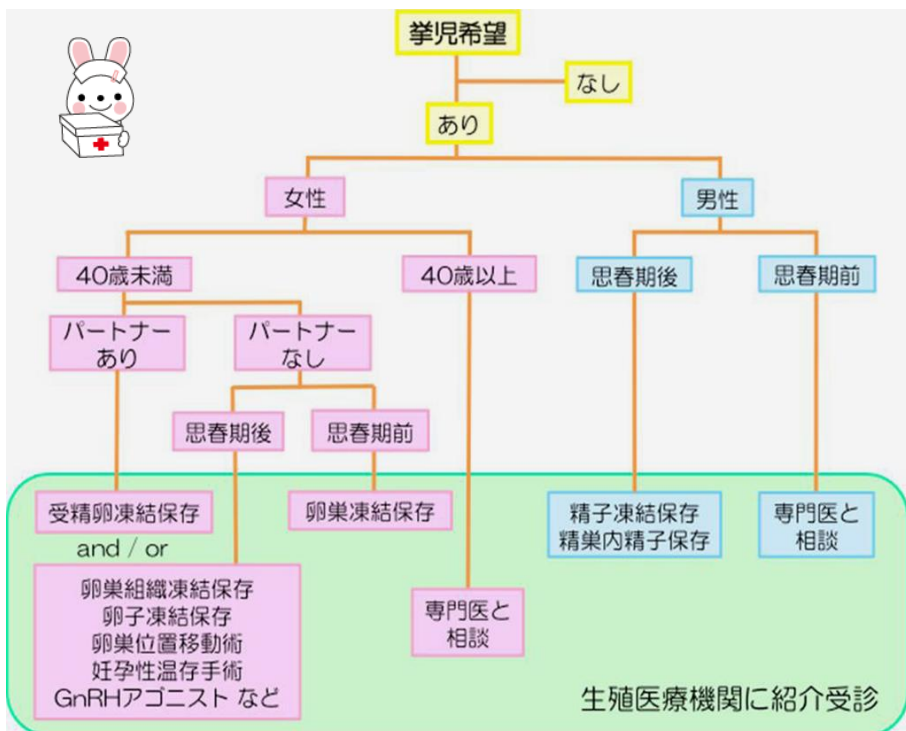
近年、がん診療の進歩によりその治療成績は向上し、がんを克服した患者さんが増えています。しかし、がんの治療である、化学療法や放射線療法による影響で妊娠のしやすさ(妊よう性)が低下したり、不妊になる患者さんも少なくありません。このような中で、がん患者さんの妊よう性を維持する医療が発展してきました。

妊よう性温存治療の対象者としては、がん治療に抗がん剤を使用する人、骨盤・精巣・卵巣に放射線を照射する可能性がある人、かつ妊よう性温存を希望する人です。

妊よう性温存治療についての医師からの説明時の同席や、説明後に患者さんが詳しく情報を知りたいと望まれたとき、がん相談窓口や外来治療室で情報提供や精神的なサポートを行います。妊よう性温存治療を希望される場合は下記の流れとなります。滋賀医科大学医学部附属病院を中心に、妊よう性維持を効果的に行うためにOF-Net Shiga が開設されており、こちらのホームページで詳しくみることができます。

生殖医療は自費診療ですが、滋賀県では2016年度より全国初の精子や卵子を凍結保存する費用を助成する制度が開始されます。(下記の新聞記事を参照)

出産や子育てをあきらめていたがん患者さんが、希望をもってがんの治療に取り組めるようにお手伝いできればと思っています。



**がん相談窓口を周知ください**  
(新館の玄関入ってすぐ右)

内線 7035

直通 68-3389(ささやく)

### がん相談窓口のお知らせ

日時:平成 28 年 3 月 14 日(月)

場所: 大会議室(南)

時間: 17:30 ~

ミニレクチャー

演題: 胆・膵内視鏡治療

講師: 消化器内科 新谷修平 医師

第二部 症例検討

参加ください



# 卵子、精子凍結を助成へ

出産や子育てを望むがん患者を対象に、滋賀県は二〇一六年度から、生殖機能への副作用が懸念される放射線や投薬治療を始める前に、精子や卵子を凍結保存する費用を助成する事業を始める。

県によると、全国初の制度で、十日公表した新年度予算案に事業費二百二万円を盛り込んだ。

対象はがん治療を始める前の四十三歳未満の男女。放射線や投薬治療せざるを得ない白血病などの患者を想定する。

県内では四十歳以下のがん発症者は毎年三百人ほどいるとされ、うち二十人ほどが対象になると見込む。希望者が増えた場合、あらためて対応を検討する。

助成額の上限は男性二万円、女性十万円。県健康医療課によると、凍結保存は健康

## 全国初 滋賀県、がん患者対象に

保険が適用されず、費用は男性が二万～四万円、女性が二十万円程度。おおむね半額を補助する。

県によると、四十歳未満のがん患者で、精子や卵子を凍結する対策があることを医療機関から伝えられるケースは全国的に三割程度にとどまり、出産や子育てをあきらめる患者も多いとみられる。

今後、県は医療機関や患者へ凍結保存の周知も図る。担当者は「がんになっても子どもを授かる可能性を低下させず、生きがい損なわれない社会構築につなげたい」と話す。

県立成人病センター(滋賀県守山市)でがん医療を担当する鈴木孝世副院長は「補助制度ができることで、子どもをあきらめていたがん患者も頑張っていくという気持ちになるだろう」と評価する。